

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立荃崎第三小学校 】

1 実践テーマ	II・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 34名 4年生 27名 5年生 38名 6年生 44名 計 143名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (つくばスタイル科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・グローバル人材を育成するための人権意識やおもてなしの心の育成 ・グループワークを通じた人間関係の向上やコミュニケーション能力の育成
5 取組内容	○ゴールボール日本代表山口凌河選手を講師として迎えた講演会・ゴールボール体験会の実施   ・講演会のテーマは、～障がい者スポーツアスリートから学ぶ～「諦めない力・理解する心」とし、突如視力を失って感じた恐怖やつらさ、様々な困難と対峙し乗り越えてきた「ポジティブ思考」について伝えていただいた。また、障がい者の視点から「障がい者が求める関わり方やサポート」、「共生社会に対する考え方」を学んだ。 ・ゴールボール体験会では、視力のない状態でのスポーツの難しさやパラスポーツへの理解を高めた。

○筑波大学客員教授江上いずみ先生によるおもてなしの心講演会の実施



- ・講演会のテーマは、オリンピック・パラリンピック教育としての「人を迎える際の第一印象の大切さ」から「おもてなしの心」の奥深さまでを学ぶとした。
- ・日常生活の中で生かすことのできるおもてなしの心やマナーについて学習し身に付けることを目標とした。

○茨城大学大学院教育学科教授正保春彦先生による「グループワーク」ワークショップの実施



- ・グループワークを実際に体験することでコミュニケーション能力を向上させる。
- ・対人関係を良好にする上でのポイントを体験を通して学ばせる。

6 主な成果

- ・パラスポーツへの理解が高まると共に、障がい者であっても自己能力を高めることができることが学習できた。
- ・障がい者への関わり方へのポイントを学ぶことにより、日常生活での配慮への理解が深まった。
- ・障がい者などの様々な人の人権について考える機会となり、グローバル人材としての人権意識を高揚させることができた。
- ・来年度に行われる東京オリンピック・パラリンピック2020への関心を高めることができた。
- ・東京オリンピック・パラリンピック2020のホスト国の一員として、「おもてなしの心」を意識して生活する心構えを持つことができた。
- ・日常生活の中で生かすことのできる「おもてなし」について学ぶことができた。
- ・グループワークのワークショップを通して、児童相互の関係性の向上を図ることができた。
- ・対人関係を向上させるためのヒントを実際の活動の中で体感することができた。
- ・児童だけでなく、教員もグループワークを通じた人間関係向上への指導の方法を学び、テキストを購入したことで今後の指導の中で随時取り入れていくことができるようになった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・児童の親近感を高める上でも、茨城県やつくば市にゆかりのある方を招聘するよう心がけた。 山口凌河選手　つくば市関彰商事所属、取手市出身 江上いずみ先生　筑波大学客員教授 正保春彦先生　茨城大学教授、つくば市在住 ・話を聞くだけでなく、活動も重視し、体験を通して学ぶことができるような構成とした。 ・学校で行う人権教育の推進とリンクさせながら、グローバル人材育成のための教育の一環として実施した。 ・いばらき教育月間とのつながりを重視した開催時期を選定して実施計画を立案した。 ・来年度実施の東京オリンピック・パラリンピック2020への関心意欲が高まるような内容を心がけた。
8 主な課題等	・新型コロナ感染症予防をふまえての開催のため、ゆとりのある開催場所や三密防止、換気などに留意しなければならなかった。今後も消毒の徹底、講演者との距離の設定、学年を分けてのリモート視聴、ゆとりのある会場設定などに気を配る必要がある。 ・今後も講師を招いて講演会等を実施するなど、事業を継続していきたいが、謝礼等の財源の確保が難しい。
9 来年度以降の実施予定	・継続で選定していただけるのであれば、来年度もオリンピック・パラリンピック教育推進事業に参加したい。 ・推進校に選定されなくても、本年度得たスキルや知識を生かした活動を来年度も実施したい。